

Rikkyo Club of Executives & Professionals 立教経済人クラブ

発行所：立教経済人クラブ 発行人：大塚裕司 編集人：徳澄範光 事務局：TEL.03-3985-3135 <http://www.r-keizaijin.net/>

2018年度対外交流事業「ビジネスパーソン・セミナー」



2018年10月22日午後6時より、同志社大学東京校友会との連携企画「ビジネスパーソン・セミナー」が立教大学池袋キャンパスにて行われました。

ビジネスパーソン・セミナーは第一部の講演会、第二部の懇親会と二部構成で行われました。

第一部の講演会は当クラブ大塚裕司会長（S51 営・株式会社大塚商会代表取締役社長）に、「信頼に応える経営をめざして ～ITで経営を変える～」と題し講演をして頂きました（講演内容は3頁にご紹介しています）。両校熱心に聞き入る講演となり、質疑応答では多数の挙手がかりましたが、時間の都合で、質問は2つまでとさせて頂くほどでした。同志社大校友会の皆様からは、大変勉強になったとお声を多数頂きました。

午後7時からは第二部となる懇親会です。場所

を立教大学池袋キャンパス第1食堂に移し、両校会員、ゲスト、来賓合わせて約100名の参加者となりました。

千葉喜章対外交流委員長（H1経）の司会で開宴となりました。まず、開宴の挨拶は大塚会長より、同志社大学の参加者に向けて講演を聞いてくださったお礼と、本日がよい縁となることを願っておりますとおことばを頂きました。続いて、児玉正之同志社大学東京校友会会長より立教大学と同志社大学が似ていることから、何かやろうとなった。まずは、両校の集まりにお互い顔を出すところから始めようといった話からこのような大きな交流となったと思っています。この会がますます大きくなるよう祈願しております。とご挨拶と乾杯のご発声を頂きました。

両校の懇親の輪が広がる中、イベントとして代表

者による対外交流について話があり、両校のことをもっと知りたいと題して、学校紹介DVDの上映・解説が行われました。こうしたイベントを行うことで、より話に華が咲きました。

懇親会の最後には、両校それぞれ出席者全員でお互いの応援歌から校歌・カレッジソングを歌うことで絆が一段と深まりました。

その後、当クラブ伊藤守副会長（S49観・株式会社毎日コムネット代表取締役社長）より、同志社大学と立教大学は似ている。世界的に問題になっているような局地戦ではなく、全体調和を大切にしているところ。譲歩しながら相手を活かすところである。お互いの交流を増やしていきたいと閉会の言葉を頂き、中締めとなりました。

—村 上 直 人 H6立高一

朝食勉強会

弁護士ドットコム上場までの軌跡、そしてこれから

日時:2018年10月3日 会場:ザ・ペニンシュラ東京 講師:元榮太一郎氏

2018年10月3日(水)に本年度第1回目の朝食勉強会が、ザ・ペニンシュラ東京において開催されました。今回は、参議院議員・弁護士ドットコム代表取締役会長 元榮太一郎先生にご講演いただきました。元榮先生は、1998年に慶応大学法学部をご卒業の後、1999年に旧司法試験に合格、2001年に弁護士登録されるとともにアンダーソン・毛利法律事務所(現、アンダーソン・毛利・友常法律事務所)に入所され、M&Aや金融など企業法務を専門とされておりました。2005年に退所の後、日本最大級の法律相談ポータルサイト「弁護士ドットコム」を運営する株式会社オーセンスグループ(現・弁護士ドットコム株式会社)を創業され、2014年12月11日には弁護士として初めて東京証券取引所マザーズ市場に上場。一方、政治家として2016年に第24回参議院議員通常選挙にて初当選され、現在では予算委員会や法務委員会など様々な役職に就任されております。弁護士として起業され、さらに政治家としても活躍されている元榮先生のバイタリティ溢れるご講演となりました。



◆ 起業のきっかけ

多くの方は弁護士試験に合格した後、弁護士資格に基づく法律実務に携われますが、私は弁護士でありながら起業というチャレンジを致しました。そのきっかけは以下の3つの出来事に起因していると思います。

1 人生を変えた交通事故(大学時代)

大学時代、バイトで貯めたお金で買った中古車に乗っていましたが、物損事故を起こしていました。当時は学生でしたのでお金がなく、なかなか諸経費の捻出まで気持ちが及んでいなかったため、任意保険に加入しておらず、示談交渉を自分で行うことになりました。大学で法律を学んでいるとはいえ、交渉の相手はプロの保険会社であったため、最初は先方から修理代50万円を100%請求する旨の提示を受けました。当該修理代やその請求割合が正しいかどうか、どこの誰に相談してよいものか、悩みつづ月日が流れたある日、母親の勧めにより弁護士会開催の法律相談会に行ってみることにしました。そこで相談した弁護士の先生から「先方にも前方注意義務違反があるので過失割合は100%ではなく70%:30%であると伝えてみなさい。」とのアドバイスをいただき、それをそのまま保険会社に伝えたと、あっさり70%:30%の交渉に応じられました。そのとき、世の中でトラブルに巻き込まれて困っている人を助ける弁護士という職業は素晴らしいと感銘を受けました。

2 ベンチャーの勢を感じる(2003年頃)

1999年に司法試験に合格し、アンダーソン・毛利法律事務所に入所しました。当時は外資系企業等が日本企業を買収するM&A案件が活発で、毎日朝方まで働く激務が続きました。当時の案件の一つに、とあるベンチャー企業が証券会社を買収する案件があり、新興のベンチャー企業が次から次へと買収しながら成長するその勢いに触れて、起業という無限大の可能性を感じました。また、時は司法制度改革の過渡期にあり、2004年度には法科大学院制度により弁護士が増加することが確実であったため、これからは弁護士だけではなく+aが必要と考え、起業という選択肢を意識しはじめました。

3 アイディア発案(2004年頃)

そんなある日、ネットサーフィンをしていたところ引越し費用を比較するサイトを見つけました。製品を比較するサイトはたくさんありましたが、引越しというサービスを比較するという考え方もあるのか。このビジネスモデルは弁護士業というサービスにも間違いなく活用できると感じたのを今でも覚えています。おそらく大学時代にトラブルに巻き込まれて途方に暮れていた際の実体験も影響していたと思います。

◆ 起業に向けて

2005年にアンダーソン・毛利法律事務所を退所後、ゼロから独立起業し、経営やインターネットサービスを勉強しながら「弁護士ドットコム」を立ち上げました。サービスを開始した直後、幸運にも読売新聞

に取り上げていただいたのですが、そこからYahooトップページに転載され、めざましテレビでもご紹介いただきました。当然、想定をはるかに上回るアクセスで、いとも簡単にサーバーがダウンしたのを覚えています。完全無料のサービスでしたので、8年間は赤字続きだったのですが、たくさんの感謝のメールをいただけることが大きな励みとなり、日中は弁護士業、日が暮れてからは弁護士ドットコムの業務というハードな毎日を乗り越えながら、「みんなの法律相談」や「弁護士ドットコムニュース」などサービスを拡張し、2012年8月には収益化が見込める月間利用者100万人まで到達いたしました。そして2013年には初の外部資金調達、CFO、COOなどジョインを経て、2014年12月11日に弁護士として初の東京証券取引所マザーズ市場に上場いたしました。

◆ これからの展望

おかげさまで国内弁護士の40%以上を占める16,000人の先生方にご登録いただいております。また弁護士以外にも税理士ドットコム、ビジネスロイヤーズなどの他専門家サイトも順調に成長しております。

また、上場後の新規事業としてWeb完結型電子契約サービス「クラウドサイン」をスタートしております。契約のスピード化、コスト削減、コンプライアンスの強化というメリットがございます。このような法律とITを融合させたLegaltech分野のパイオニア企業として、これからも成長してまいりたいと思います。

—新美 智彦 H9産一

2018年度対外交流事業「ビジネスパーソン・セミナー」講演会

信頼に応える経営を目指して ～ITで経営を変える～ 大戦略による経営改革のあゆみ

講師：株式会社大塚商会 代表取締役社長 大塚裕司(S51経)

2018年度より、対外交流事業の一環として同志社大学との「ビジネスパーソン・セミナー」を開催することになりました。1回目は立教経済人クラブの大塚裕司会長に『信頼に応える経営を目指して』と題し、ITを活用したことによる株式会社大塚商会の変革をご講演頂きました。

■はじめに

立教IT会の会長と立教経済人クラブの会長をしています。現在64歳となります。小学校から立教でございまして16年間、つまり立教と人生の1/4をすごしております。

また私は、大塚商会の2代目となります。父は38歳で会社を興しておりますが、本日はその時の話や、バブル明けの苦しい時期をどのように改善してきたか、お話ししたいと思いますので宜しくお願い致します。

■コマーシャルそしてミッションステートメント

社長になったのが2001年で父が会長になりました。その頃、現在皆さんがご覧になるダジャレのコマーシャルをはじめて作成しました。現在ではコマーシャルのダジャレは60作となっています。

コマーシャルはトーンが変わらないように、最終的には全て自分で確認しています。皆さんが元気になるように、昭和のテイストを残しつつ変わらぬよう意識しています。

創業は1961年。特徴は社員数が多いこと、拠点数が多いことですがバブルの時影響しました。ミッションステートメントは上場して、プライベートカンパニーからパブリックカンパニーになった時、約1年かけて考えました。

■歴史

父は、理研光学株式会社(現 株式会社リコー)から独立致しました。GHQに青焼きの紙を納入するなど、事務機との関係がその頃からはじまったといえます。しかし、最初の独立は、東芝・松下など大手に押され上手くいきませんでした。その後、関西にある三菱製紙系の会社が、新規事業として青焼きの紙をやることになり、実績のあった父は引き抜かれることとなりました。しかしまた、良い事は続かず、売り上げが伸びるほどやっかみも増え、飼ひ殺しになることとなります。

そして1961年。じつは会社を作りたいで作ったわけではありません。そのような理由で退職することとなり、生命保険を解約致し30万円を元手に会社を作ったわけです。

有名な話で一杯の掛けそばなんてありましたが、小学生の頃は私も天ぷらそばではなく、ざるそばを選ぶような生活でした。

当時の事業は、電話一本で青焼きの紙をお持ちする。故障も自社で修理する。販売会社とサービス会社

が一体となった事業構成でした。別々の会社にするのが一般的ですが、弊社は元々一本化しております。お客様の仕事を止めない。それを大切にするためです。

その後、60年代「複写機の大塚商会」⇒70年代「COF(コピー・オフコン・ファックス)の大塚商会」⇒80年代「OAの大塚商会」と変革をしましたが、販売とサービスの両輪ということは創業以来かわっておりません。

現在の大塚商会のイメージというと、販売会社というイメージですがサポートのメンバーが4割となっています。弊社は中小企業に支えられていますから、必要なものをONしていきさらにフォロー体制も自社で持つというユニークな体制となっているかと思います。

それを支えた戦略・会社の安定としてキーとなっているのが、ストックビジネスです。通常、まずはサプライとしてたのめーるでお取引を頂きます。その後さらにコンピューターなどの保守などをご契約頂く定期的に受注があり人員を増やさなくても安定した売上となります。

上場した2000年はストックビジネスの売上高が815億で全売上高の25%の占有率でしたが、現在は2,660億で42.6%を占めます。仮にハードが売れないとしても、4割は売上がある安定した形となります。

■「大戦略」による経営改革のあゆみ

人生の紆余曲折があり、私が大塚商会に戻った1992年は年売上高2000億円 経常利益5.3億円 有利子負債887億 支払金利57億円でした。会社経営しているかたはご理解されるかと思いますが、売上高の半分くらい有利子負債があるのはとんでもないということで社内改革を行いました。結果約10年で1/10まで有利子負債を減らしました。2003年に新社屋の建築で190億の借入を行いました。それも1年で返済するなど、改革の成果がありました。

では、どのように社内を改革したかについてお話しします。

まず、大切にしているのは「当たり前」の事を当たり前にするということです。お金の強さと素晴らしさは銀行員時代に目の当たりにしました。だから、企業会計原則通り行う。バックヤードを正確に管理することです。会社をつぶしちゃいけないという言葉に自分がどれだけコミットメントできるかが問われると思います。

それを踏まえて、大戦略プロジェクトをスタートしました。

まず問題となったのは、それまで支店において売上から商品の管理まで全て行っていたこと。会社が大きくなりどこに何があるか?どのお客様が一番売上があ



るかもわからない状態になっていました。バブル以降その弱点が一番顕著でした。

様々なところに相談致しましたが、結局自分たちでやることとなります。

そこで、倉庫を1つにし、売上機能そのものを現場に渡さないことにしました。すると綺麗なデータができる。このように仕組みを上流工程で押さえました。ですので、事故率は0.03%程度という信販会社以上の与信管理を、データの集中管理することで可能としました。

綺麗なデータを得たことでSPRを導入しました。これは当社独自開発でSales Process Re-engineeringの略称です。お客さまのプロフィール・取引履歴(過去)・提案状況(現在)・要望ニーズ(未来)を正確に本社組織が知る。そして、お客さまも営業も本社組織から見えるようにすることでIQ100の人がIQ120の仕事が出来るような仕組みです。

次の課題は、一番多いサポートの人員です。行ったことは、エンジニアのマルチスキル化。以前はコピーとコンピューターのメンテナンスをする人員は別でありましたが、9年かけて統一しました。それにより、一人当たりのエンジニアの生産性も上げています。

■経営環境の変化と大塚商会の取り組み

お客さまとの新たな関係創りのため、お客さまマイページ・電話オペレーター・会社ビッグデータ・チャットボットの活用を推進しています。

また、働き方改革においても自社で常に先取りし生産性を向上させ、その自社事例を経験にお客さまの働き方改革を支援しています。IT活用の成果として現実の成果として、1998年度と2017年度の比較では売上高は倍増・社員数微増・休日数が半月増となりました。

社会貢献としては2011年にブラジルのマカパに予防注射を6本受けて150ha・17万本のユーカリの木の植林をしてまいりました。その後最大500haに拡張しています。本年よりこの木を使ってOA用紙を作成、販売を始めます。この利益は日本ユニセフ協会・日本赤十字社・日本補助犬協会に寄付を行います。

最後に、大塚商会の年度スローガンです。毎年変更しておりますが、一個のコンセプトをずっと続けています。ある意味で経営は継続だと思っておりますので、同じコンセプトを繰り返すことが必要だと思っております。 —村上 直人 H6立高一

建学の精神をたづねて

池袋開学100年 ～煉瓦づくりという共通点で東京ステーションと池袋キャンパス(特に1号館／モリス館)について考える～

一般社団法人 TJI東京神保町アイデアタンク
代表理事 黒田裕治(78法)

1918年(大正7年)立教大学が、築地より池袋に移転してきた。今から100年前の9月であった。

100年という節目の今、新天地に込めた建学の「思い」をたづねてみましょう。

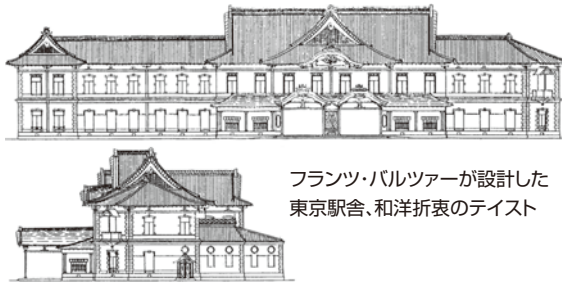
江戸時代から明治に変わり、それ以降すべての価値観が換えさせられた過程で、とりわけ目立ったことの一つに「煉瓦」を多用した建築様式が増えたことが挙げられます。代表的な建造物といえば「東京駅舎」でしょう。当初はバルツァー(フランツ・バルツァー: Franz Baltzer, 1857年5月 - 1927年9月: ドイツの鉄道技術者・建築技術者)という技師が鉄道網設計のために招聘されました。駅舎についても担当して、日本の玄関口東京駅の設計を任されました。日本建築に関心を持っていたバルツァーは、瓦屋根を持った日本建築様式の東京駅舎を提案します。しかし西洋文明に衝撃を受け、ヨーロッパへの憧れの時代であった当時の日本ではまったく受け入れられませんでした。実際にルネサンス風の建築で東京駅舎を設計した辰野金吾からは酷評されます。しかし東京駅の基本的な平面構成はほぼそのまま採用、駅舎の中央に皇室専用の出入り口を設けホームへ通じる専用通路を備えるというアイデアはバルツァーのものです。東京駅の八重洲側には当初貨物駅の設置計画があり、バルツァーの設計原案でもそのように配慮されていました。その後の鉄道国有化に伴い、隅田川駅・秋葉原駅・飯田町駅など私鉄の保有していた貨物駅を国鉄が利用できるようになったことからこれは取り止めとなり、このスペースは車両基地に用いられることになりました。こうして広大なスペースを八重洲側に備えて開業することになりましたがホームを増設しあるいは商業施設を設置するために利用できると、バルツァーは土地活用のことまで配慮していました。結果的にこのスペースはのちに東海道新幹線の乗り入れや八重洲の駅ビル設置に活用されています。現在のエキナカショッピングゾーンや駅ビルテナント戦略に繋がっているのでしょうか?興味深いところですね。

一方、築地から移転した池袋キャンパス本館は、1918年(大正7年)に建設されたレンガ造の建物です。米国の在日宣教師の中で要職を務めていた教員のアーサー・ラザフォード・モリスが、相当額の費用を寄付したことから、モリス館とも呼ばれています。

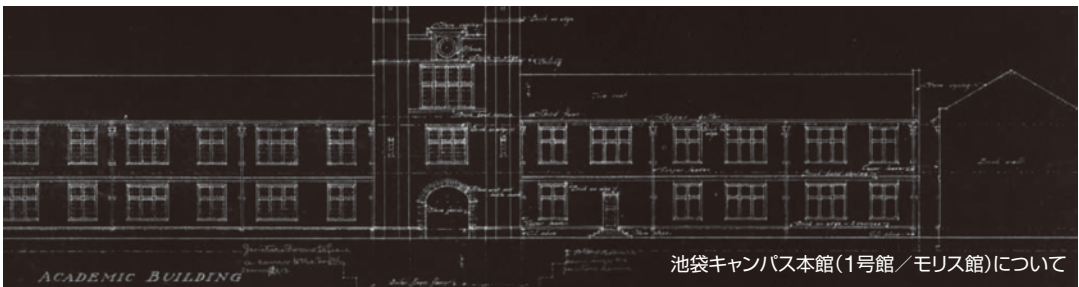
設計は、ニューヨークのマーフィー・アンド・ダナ建築事務所、施工は清水組(現清水建設)によってなされました。レンガの積立法は、フランス(フランドル)積みと言われる、十字形のパターンとなる美しい積み方です。この手法は手間がかかるため、日本では極めて珍しく、現在では数件程度しか見られないそうです。中央時計台の時計はイギリス・デント社製で、直径90cm。動力は分銅式で、現在も6日に一度、手で巻かれています。立教大学の建築群は、東京駅と並んで日本の大規模煉瓦造建築を代表するものであり、大学本館(モリス館)・図書館・礼拝堂・寄宿舍(現研究室)・食堂・体育館及び校友会館(現診療所)の八棟は赤煉瓦造りで、16世紀の英国のチューダー王朝時代に完成した正統なゴシック様式を合理化したもので、20世紀の米国ではブームとなります。尖頭アーチ型の窓や出入口の意匠に特徴があり、とりわけ立教大学煉瓦造建築群の格調の高さと保存状態の良さは、他に類を見ないと云われるほど良好でありました。

100年の計で見えていますとこの2つの煉瓦造は大きな試練を受けることになります。一つ目は

明治東京地震(めいじとうきょうじしん): 1894年(明治27年)6月20日14時4分、東京湾北部(北緯35.7度、東経139.8度)を震源として発生した地震。南関東直下地震



フランツ・バルツァーが設計した
東京駅舎、和洋折衷のテイスト



池袋キャンパス本館(1号館／モリス館)について

の一つ。地震の規模はマグニチュード 7.0、震源の深さは約40kmから80kmと推定されます。この時はまだ東京駅舎はありませんでした。当時の築地居留地で、立教中学校や立教女学院 立教大学等の初期建築を手がけた、ジェームズ・マクドナルド・ガーディナー (James McDonald Gardiner, 1857年5月22日 - 1925年11月25日: アメリカ人建築家、教育者 立教大学の初代校長) はこの大地震で建物が被害を受けたことは大きなショックだったようです。以来、建物の耐震性も考慮した設計を行うようになりました。

＊ポイント: 日本は古来より地震や台風 火山爆発等の自然災害が多発する地球上でも稀な場所に位置し、日本建築は例えば法隆寺や東寺の多層塔建築のように木組みの柔構造で地震エネルギーをうまくいなしたり、倒壊しても木組みをばらして別の土地で再度組み立てる方式等の技術が発達していました。ただ、火災に弱いという弱点はありました。

比較して煉瓦や石組みで建てる西洋式建築は火事に強かったのですが、日本という地殻変動の多発する場所での経験は少なく、そういう意味では築地での西洋建築が倒壊したことは

耐震性の研究にとって大変貴重なデータを提供したことになります。ガーディナーは当時ロンドン大学出身者で日本に招聘された学者ミルン (John Milne 1850~1913) 日本で地震の研究に没頭し日本における「地震の父」と呼ばれ、地震計の改良や地震学会の創立に寄与しました。)と親交があり、共に耐震建築を研究したようです。

ガーディナー自身、池袋キャンパスの建設に直接の関わりはなかったようですが、マーフィー・アンド・ダナ建築事務所が「煉瓦造における耐震設計」を第一義的に考えて設計しました。2度目の試練である関東大震災(1923年大正12年9月1日11時58分32秒頃に発生した大地震によって、南関東および隣接地で大きな被害をもたらした)では 築地の立教中学校は地震には耐えたものの地震後の火災で焼失したことをきっかけに池袋へ移転することになります。池袋の建物も被害を受けたものの本館校舎部分は最小限にとどまり補修工事を経て復旧しました。特徴的だったタワー部分は1本を煙突機能として復活させ、あとは高さを下げて修復しました。

さて、大震災に遭遇した東京駅は無事でした。大震災を耐え抜いた秘密は、青森産の1万1千本を越す松です。地質もあまり良くなかった東京駅の軟弱な地盤を補うように8mほどの長さの松杭を打ち込んで強化しました。単純な方法ではありますが、そのおかげで被害は最小限にとどまり、復興の玄関口として東京発展の中心を担うことができましたのです。

耐震の基礎として、地盤の強化と建造物の耐震化が

プロフィール

1955年7月4日 広島県尾道市 生まれ
立教高等学校 立教大学を経て
近畿日本ツーリスト株式会社に勤務
2012年、独立して安曇野シンクタンク創立に加わり、
現 神保町シンクタンクを主宰
財団法人 江戸・東京歴史文化ルネッサンスの会 執行役員

相まって耐えた東京駅舎ですが、明治東京地震の経験が生かされたのですね。

さて、時は2011年に進みます。3月11日(金曜日)14時46分18秒宮城県牡鹿半島の東南東沖130km(北緯38度06.2分、東経142度51.6分、深さ24km)を震源とする東北地方太平洋沖地震が発生。地震の規模はモーメントマグニチュード (Mw) 9.0で、発生時点において日本周辺における観測史上最大の地震が発生しました。その時母校は帰宅困難者3300人を受け入れました。学生／教職員を含めると、約5300人の人々がキャンパス内で過ごしたことになります。

当日は大きな混乱もなくスムーズな対応で、帰宅困難者や近所の人々、学生たちのケアができました。きっかけは1995年の関西淡路大震災の教訓を活かそうと大学側が計画で耐震化を進めてきたようです。その 耐震工事でも、2012年3月に、本学の象徴 ともいえる本館の耐震工事をもって終了。これにより、池袋・新座両キャンパスの建物はすべて震度7に耐えられる構造となったそうです。

今回の結論: 江戸から明治に変わり、連綿と受け継がれた日本文化が西洋文化と対峙することになりました。耐震性か防火性かで、西洋建築という文化と城郭建築や寺社伝統木構造文化

がぶつかります。しかしすぐにそれぞれの良い特徴を生かして新しい考え方ができてきます。立教池袋移転100年史でもそのぶつかり合いとその後の融合(理解し合う)が描き出されます。

そして新しい知恵が双方に恩恵をもたらします。そしてこれらの閃きが醸成されやすい環境を繋ぐことが今後の我々のミッションとなるのではないのでしょうか?

大河ドラマNHKの「セゴどん」も明治維新の混乱を描き出して来ました! そう、すでに、立教創始者ウィリアムズ主教も、同じ志の新島襄先生もセゴどんとはほぼ同世代の人なのです。

今後起こるかもしれない天変地異に、市民を守る拠点としての役割が都市型大学キャンパスに期待されています。我々アルムナイはそういうキャンパスを支える存在となりましょう。

参考

築地居留地研究会 Vol.2 J・M・ガーディナーと日光
元立教女学院教諭 菅原凉子
立教大学 式辞集 018春
THE QUARTERLY RIKKYO Vol.245
立教大学池袋キャンパスの建設とヘンリー・K・マーフィー 鈴木勇一郎
立教大学HP
Wikipedia

ウィリアムズ主教が召し上がった日本茶を訪ねて

第7回：ベトナムのお茶



グエンフエ通りに立つホーチミン像

私が設立した日本茶アンバサダー協会は「アンバサダー」という通り、日本茶の伝道師の育成を志しています。ウィリアムズ主教や多くのキリスト教の伝道師たちがそうであったように、一方的に価値観を押し付けるのではなく伝えようとする相手のことを理解し、相手にあった伝え方をすることを大切にしています。日本国内での消費者の掘り起こしが最重要課題と考えていますが、海外での展開も視野に入れています。仕事で訪れたベトナムはホーチミンで時間のゆるすかぎりカフェや市場をまわって、日本茶や日本食の状況を足と胃袋で調べてまいりましたので、少しご披露させていただきます。

ホーチミンは味わっていない私が想像する日本の高度経済成長期のようなすさまじいエネル

ギーに満ち溢れていました。道路はガタガタで、身なりも質素だけど、あちこちで工事をしている、今日より明日がよくなることを前提にした明るさを感じます。

スターバックスをはじめ、海外資本の飲食店が既にたくさん出ています。日本も丸亀製麺や一風堂などが出店し人気を博しています。焼き肉屋や日本風の名前を冠したお店の多くが韓国資本という情報もありますが…。

カフェの多さは目を疑うほど。街中カフェだらけ！さらに驚くのはそのスタイリッシュさです。フランス領であったことが影響しているの、グリーンをうまくつかったリキスなインテリアの現地資本のカフェがそこかしこにあります。路上でもコーヒーやその場で絞るジュースを販売しているので、風呂椅子のような低い椅子や道端に腰かけてくつろいでいる男性（ほぼ男性！どうしてでしょう??）がそこかしこにいるのが印象的でした。

ベトナムはお茶の生産国（日本よりも上位）ですが、ホーチミンではコーヒーが中心。甘味料やタピオカいりの

甘いお茶と抹茶ラテはカフェの定番メニューになっていますが伝統的なお茶はスーパーや専門店、ローカルフードのレストランでみかけるくらいというこれまた日本と近い状況でした。次回はハノイなど北部のお茶の生産地まで足をのばして見聞を深めたいと思います。

満木葉子

1998年立教大学文学部心理学科卒業。

株式会社ねこばんち代表取締役/一般社団法人日本茶アンバサダー協会代表理事

商品開発やプロモーション、マーケティング、協会・スクール事業の設立サポートなど実施。2015年に一般社団法人日本茶アンバサダー協会を設立。日本茶のファンづくりと産地活性化に取り組む。2017年「地方創生ディレクター」上梓（共著）。

☆日本茶応援サイト『ENJOY!日本茶』

www.nihoncha.org/

☆株式会社ねこばんちFBページ

www.facebook.com/kabushikigaisyanekopanchi/



伝統的なベトナム茶をレストランで

グルメ会



2018年10月17日（水）に立教経済人クラブ・グルメ会が開催されました。今回は、東京・初台の東京オペラシティタワーの53階にある「一味真（いちみしん）」にて、和のテイストをふんだんに盛り込んだフレンチ料理と日本のワインを楽しみました。ゲストの皆さまを含めて14名のご参加を頂きました。

一味真の会場は、大きく3つのエリアに分かれておりましたが、個室部分以外の2つのエリアを貸切りとさせて頂き、ゆったりとした空間でコース料理を楽しむことが出来ました。また、53階から望む新宿の高層ビルの夜景やイルミネーションは、日常を離れた贅沢な空間で素敵な時間を過ごすことが出来ました。

通常は要予約の「うにキャビア丼」を特別に3つまでお店側に用意して頂いたところ、若手の3名が立候補して、コース料理の値段に匹敵する！？高価な丼ぶりを注文しました。蟹身を使って炊いたご飯に、キャビアを厚く乗せて、その上にウニ、さらには金箔で仕上げるという、なんとも贅沢な丼ぶりでした。周りでは、歓声とともに写真を撮る人が続出でした。

最後は、新宿の夜景が見えるところで集合写真を撮影して中締めとなり、あっという間の楽しい時間を皆で過ごすことが出来ました。 一二瓶 豊 H10法一



「働き方改革法」施行に伴う今後の企業対応について 第1回

本年7月6日、「働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律」(以下、「働き方改革法」)が公布され、来年2019年4月1日にいよいよ施行(一部翌年以降)となります。

「少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少」や「育児や介護との両立など、働く方のニーズの多様化」などの状況に直面している昨今、働く方の置かれた個々の事情に応じて、多様な働き方を選択できる社会を実現し、働く方一人ひとりがより良い将来の展望を持てるようにすることを目指す趣旨で制定されました。

すでに新聞やTVなどでご存知かと思いますが、1.「働き方改革の総合的かつ継続的な推進」を国が行いながら、働き方を改革して、労働環境を整備し、2.「長時間労働の是正」と「多様で柔軟な働き方の実現」、3.「雇用形態に関わらない公正な待遇の確保」を具体的に実現していく、3つの施策から成り立つ法律となります。第1回目の今回は、「長時間労働の是正」、「多様で柔軟な働き方の実現」について、解説をして参ります。

まず、2.「長時間労働の是正」では①時間外労働の上限について、月45時間、年360時間を原則として、特別な事情がある場合でも年720時間、単月100時間未満、複数月平均80時間を限度に設定されました。また、中小企業にとって打撃となるのが、②時間外労働60時間以上の50%以上の割増賃金率の猶予措置撤廃で、①の特別月はコストが上昇することになります。その他、③使用者に、年5日以上 of 年次有給休暇の付与(時期指定)も義務化となりました。

企業の対応としては、①につきましては、36協定の労基署提出時に法令を遵守する形での修正提出を行うことや、同時に社内の働き方を点検して、繁忙期の対応を速やかに準備することが大切です。組織変更や追加採用なども必要となることもありますので、出来る限り早く検討をスタートすることが必須です。

②も①に関連して、時間外労働削減を検討した上で、賃金規程を変更して労基署に提出しますが、①同様に早めの準備を必要となります。

③については、すでに夏季休暇等で導入されている会社も多いとは思いますが、各会社の事情に合わせて、比較的 low 稼働時に班を分けて、時期を指示することが現実的かと思えます。

次に「多様で柔軟な働き方の実現」としては、①フレックスタイム制の清算期間上限を1か月から3か月までに変更され、清算期間が1か月を超える場合、一週間当たりの労働時間が50時間を超えないようにすること、②高度プロフェッショナル制度の創設(長時間労働者の健康確保)、③労働時間把握義務の明確化、④産業医・産業保健機能の強化、⑤勤務間インターバル制度の普及促進など細やかな変更となりました。

企業の対応としては、①につきましては、フレックスタイム制導入は精算の煩雑さで減りつつある傾向ですが、就業規則の変更や労使協定の労基署提出は必要とはなりますが、システム開発のプログラム納品や決算処理など月を跨いだ作業には活用しやすい形となりましたので、検討され

る価値はあります。

従来の清算期間における総労働時間の計算は、原則として40時間×清算期間の日数÷7で計算されていたので、例えば31日の月では、今回の改正を反映させて計算した場合、50時間×31日÷7=221.4時間が上限となるものと考えられます。40時間ベースで計算した31日の場合の時間数は177.1時間となりますので、これと比べると44.3時間の増加となります。超えた部分は当然割増賃金の支払いは必要ではありますが、利用しやすい形にはなっています。

②につきましては、高度プロフェッショナルの定義が年収要件1,075万円と専門業務従事者となっておりますが、具体的な施行規則がこれから発表となりますので、それを待って導入検討をお勧めいたします。時間外労働、休日労働、深夜労働などの割増賃金の支払いが免除されるものとなりますので、会社の管理はしやすい反面、社員の負担が大きいものとなりますので、年間104日の休日を確実に取得させること等健康確保措置を講じることにはなっていますが、慎重な導入がリスクヘッジにも繋がります。

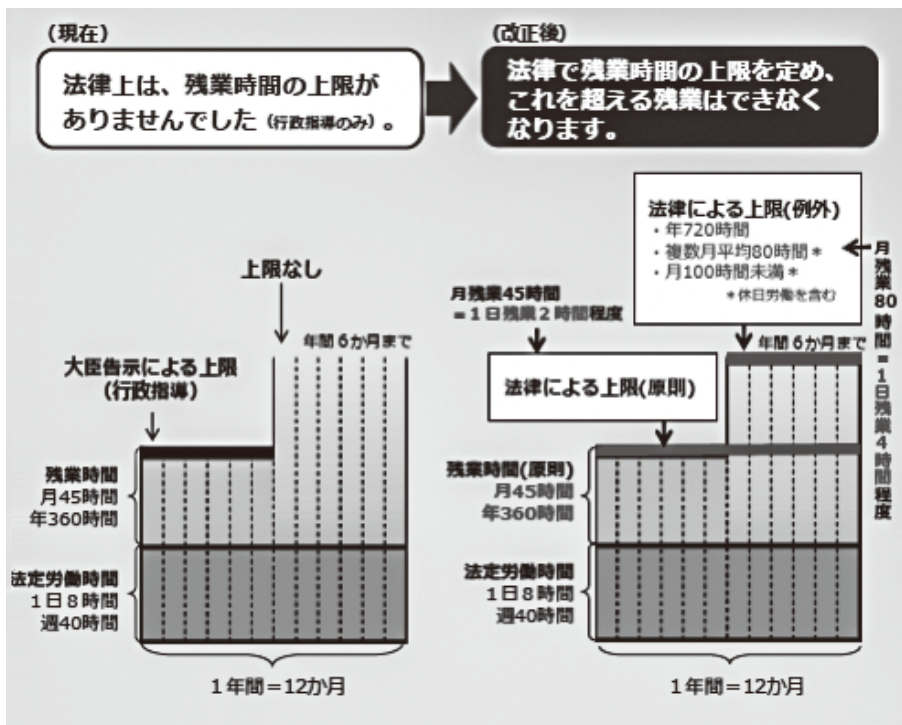
③は伝統的に出面でしか管理していなかった建設業なども含め、全業種に労働時間把握義務の明確化を実施することになりました。こちらは、勤怠管理専門のシステム会社がありますので、タイムカードを導入して集計するよりも手間が省けて、管理しやすくなります。

④は現在産業医の配置義務は50名以上の事業所に限られておりますが、事業主から産業医への健康情報開示と衛生委員会への産業医指導内容報告が義務化されましたので、まだ特定の産業医を任命されていない会社は速やかに任命して、労基署へ届出を行う必要があります。

梅村吉博(S62営)

現在、ストラテジーグループ 代表
株式会社ストラテジー、株式会社STRキャリア代表取締役社長
特定社会保険労務士(IPO支援・人事制度アドバイザー)
東京ワセダロータリークラブ会員

経歴
立教大学卒業後、総合出版社入社し、20年間勤務。その後、CCC傘下経営コンサル
タント会社にて人事部長、マザーズ上場医療情報IT企業にて執行役員人事総務部長
を歴任。2010年に独立し、現在に至る。



第73回立教経済人クラブゴルフ会



2018年7月28日(土)に第73回立教経済人クラブゴルフ会が開催されました。今回は例年よりも1,2週間遅めの開催でしたが、不運にも台風が近付いて来てしまいました。

中止も考えましたが、皆様集合していただきましたし、何とかプレイできそうなのでスタートしました!残念ながら、午後から風雨が強まる予報でしたので、午前中のハーフだけの会とさせていただきました。せっかくご参加頂きました皆様、申し訳ありませんでした。

午前中は、風が強かったですが、雨はたいしたことなかったのも、無事に終了しました。足元はぐちゃぐちゃですでお風呂に入り、さっば

りしてからいよいよ表彰式です。

キャデューマスターからの提案で、午後のラウンドはパソコン入力の関係で皆さんパープレイとして計算しましたとの事でした!!これは良いスコアが期待できます(^_^)

この悪天候の中、優勝は49:36で回りました大庭 忠良氏でした。和田 成史最高顧問から優勝トロフィーが授与されました。準優勝は44:36で回りました、大野 勝三氏でした。和田 成史最高顧問から準優勝トロフィーが授与されました。優勝の方からお好

きな副賞をお持ち帰りいただきました。

グルメ商品券をはじめ有名なワイン、日本酒、焼酎やホテル製スープセット、スイーツ等々、食にまつわる品物が多数あり、皆様たいへん迷っておられます。私もいつも美味しいお酒をいただき楽しんでおります。和やかに歓談したいところですが、台風が近付いているということで今回は早めに記念撮影をして解散となりました(^_^)

このような悪天候の中、お集まりいただき、誠にありがとうございますm(_ _)m

次回もどうぞよろしくお願いいたします! ー長倉 一裕 S59法ー

❖ 女 ❖ 子 ❖ 会 ❖

「誰にも聞けなかった服の悩み」

2018年9月19日(水)根津美術館近くの会員制 青山サロンにて、女子会を開催いたしました。今回は、「誰にも聞けなかった服の悩み」と題し、パーソナルスタイリスト 霜島まき子氏の講演および懇親会を開催いたしました。

霜島氏からはパーソナルスタイリストについて、スーツの正しい着方・選び方や服を選ぶ際のポイント等、ビジネスでもプライベートでも活かせる簡単イメトレ術をお話いただきました。参加者とコミュニケーションをとりながらの講演でしたので、お話が盛り上がり笑い声あふれる会となりました。

また、青山の夜景を望めるプライベートな素敵なサロンでしたので、美味しい食事と共に、リラックスしながらファッションにとどまらず様々なお話で交流いただけました。

次回はまた趣向を変えて計画いたしますので、ご参加お待ちしております。

ー長倉 一裕 S59法ー



第2回理事会

2018年11月8日(木)、本年度立教経済人クラブ第2回理事会が新橋の新橋亭(取締役会長:呉 東富氏 S41営)にて開催されました。18時30分の定刻より井口一世事務局長(S53営)の司会進行の元、理事会を開始。冒頭、大塚裕司会長(S51営)より挨拶をいただいた後、今年度実施された各委員会企画事項の進捗状況並びに中間会計を報告させていただきました。特に、大塚会長にもご協力をいただきました同志社大学東京校友会との対外交流事業については、千葉喜章(H1経)委員長より詳細の報告をさせていただきました。前会長戸井田最高顧問、前々会長の和田最高顧問を始め、各顧問・理事の皆様からご意見並びにご助言を賜り、理事会を無事終了いたしました。

その後懇親会へと移り、谷田権顧問(S35経)による高らかな乾杯のご発声により開宴。今回も新橋亭 呉氏のお計らいにより、おいしい中華料理を始め、ちょうど時期となった上海ガニの身と味噌がとろりと餡かけになったチャーハン(絶品!)をご提供いただき、参加しているメンバーはめったに味わうことのない機会とばかりおいしい料理に舌鼓をうちました。諸先輩方の近況報告では、大学との関係がますます強くなっている点や、11月におこなわれる立教大学池袋移転100周年の話題などで盛り上がりました。定刻21時に散会となりました。引き続き各委員会の活動にご支援とご指導をお願いいたします。

ー品川 高穂 H8経ー

新しく会員になられた方々

(敬称略)

小倉 教央 平成4法

五洋建設(株)
建設営業本部 担当部長
〒112-8576 文京区後楽2-2-8
TEL:03-3817-8025
FAX:03-3817-7278
E-Mail:norio.ogura@mail.penta-ocean.co.jp
総合建設業

北澤 麻美 昭和56キ

ゼネラルエンジニアリング(株)
エンジニアリング本部 本部長
〒144-0035 大田区南蒲田2-16-1
テクノポートカマタセンタービル6F
TEL:03-3736-1081
FAX:03-3730-7281
E-Mail:kitazawa@geng.co.jp
技術者派遣

菅原 清暁 平成12心

松田総合法律事務所
パートナー弁護士
〒100-0004 千代田区大手町2-6-1
朝日生命大手町ビル7F
TEL:03-3272-0101
FAX:03-3272-0102
E-Mail:sugawara@jmatsuda-law.com
弁護士

中村 雀右衛門 校友会特別会員 社

古典芸能

松原 英雄 平成9立中

アトムメディカル(株)
専務取締役
〒113-0033 文京区本郷3-18-15
TEL:03-3815-2311
FAX:h-matsubara@atomed.co.jp
医療機器メーカー

その買い物「仕入」それとも「販管費」

出会いは最高に楽しい。「土井英司」という超人に巡りあったのは栢野克己さん(小さな会社の稼ぐ技術・著者)のセミナーだった。参加費は7777円。幸運を暗示していた。栢野さんが「社長が外車を乗り回すようになったら会社は傾く。土井英司もマセラッティを買ったようだ。危ない。」そんな冗談を言った後の登場だった。

「多くの買い物はすべて仕入れ。マセラッティを買うことで、これまで全く縁のなかった人たちと交流できた。彼らの情報はとても仕事に役立っている。」大変説得力のあることばだった。

土井さんは出版マーケティングのコンサルタント。著者の強みの発掘からブランド構築、マーケティングや出版戦略まで手掛ける業界のカリスマ。世界で700万部を突破したコンマリさん著「人生がときめく片付けの魔法」は土井さんのプロデュースとして有名だ。メルマガ「ビジネスブックマラソン」はユーザー数5万6000人。1年に1000冊読むビジネス書から、お勧めの本を1日に1冊紹介する。2004年7月から始まり、間もなく5200号を迎える。

土井さんの話を聞いて考えた。多くの買い物は仕入れだろうか。例えば毎日飲んでいるノニジュース。この5年のハードな仕事を乗り切れたのはノニのおかげ。懐には随分痛かったが仕入れとしても良いだろう。美味しいものを食べに行くはどうだろう。地元伊予っ子の魚とカウベルの焼肉。古くから通っている洋食斉藤のハンバーグ。今半のステーキ。卵のうどんすき。どれも食べている時は至福の幸せだ。しかしこれは仕入れだろうか。

そこで良いことを考えた。それはずばり、好きな店の味を家族に振舞うことだ。そうすれば完璧な仕入れになる。まずは伊予っ子に聞いた浦和市場に買い出しだ。目指すは内藤と大翔。しかし残念ながら包丁を全く使えない。だから料理教室で特訓を受ける。妻と娘の喜ぶ顔が目浮かぶ。家庭の笑顔は最高の仕入れだ。

昭和58年社会学部産業関係学科卒

日経読み方アドバイザー安尾圭司

keiji.yasuo@nikkeimp.co.jp

2018年度 事業計画書

12月 11日 クリスマスパティー



**Facebookで、
立教経済人クラブの
グループに参加しよう!**

セミナーや新製品の告知、交流の場として
ドシドシ投稿してください。

立教経済人クラブ ウェブサイト

<http://www.r-keizaijin.net>

立教経済人クラブでの、過去の行事や活動は、
ウェブサイトでご覧頂けます。



編集後記

10月29日ハロウィンに沸く渋谷に降り立ちました。決して、ハロウィンを渋谷で楽しもうと思ったわけではありません。仲間達とお酒でも一杯やろうと以前から話しており、日程調整の結果10月29日となったわけです。

飲み会までに業務を終わらせるため、予定を前倒しで行った私は前日起こったハロウィンのニュースを見ずに渋谷に到着。街の喧騒を歩きながら、もう一体となって騒ぐことは出来ないなあと思いつつも、様々な仮装をして今を楽しんでいる若者をうらやましいとも思いつつ目的の店を目指します。

若者の生気を胸いっぱい詰めて、仲間と会うなり聞かれます。

「今朝のニュース見た?」見ていない・・・
「車が横転させられたの、近くらいぞ!」え??
「なんで今日にしたんだっけ?」今日ハロウィンの時期って気づいてました?

「全くハロウィンは考えなかったなあ」
仲間の言葉に、なんだかホッとします。
同時に、突然さっきまで笑顔で楽しんでいるように見えた若者たちが、何かすごい暴漢のように見えてきました。勝手なものだなと自分を思いました。ついさっきまで、うらやましかったり、輝いて見えた街の若者が、突然敵のように見えるわけです。

少しだけ身体を緊張させたところで、他の仲間が続々集まってきます。お疲れ様です。ご無沙汰し

てます。なんて、20年前は言わなかった挨拶をしてビールで乾杯。

「今日ハロウィンって気づいてた?」誰も気づいていない。

再びホッとして、お酒もマッコリに変わり、話題も20年前は言わなかった仕事の話へ。あれが大変だ。これが楽しいなんて馬鹿話。20年前と変わらないうのは、お酒の量と笑いの量。増えたのは、仲間との絆の量と、健康診断の要再検査の量。

身体の緊張は全く取れ、少しだけ脂肪で仮装したメンバーで、「まだまだ若者に負けないぞ!」と渋谷を後にしました。様々な仲間に出会える立教。ありがとう。
一村上 直人 H6立高一